

〔第 1 問〕 解答にあたっては、それぞれ200字以内（句読点を含む）で記入すること。

問 1

仮設材料とは、工事の完了とともに撤去される共通仮設部分で、再び他の工事に使用する材料のことである。仮設材料費の把握方法には、あらかじめ材料の使用による損耗分等の各工事負担分を使用日数当たりについて予定しておき、後日差異を調整する社内損料計算方式と、工事の用に供した時点でその取得原価全額を工事原価としておき、工事完了時に資産価値を有する場合、その評価額を当該工事原価から控除するすくい出し方式がある。

問 2

顧客ライフサイクル・コストとは、製品の企画・開発段階から廃棄処分に至るまで、使用期間に発生するすべてのコストの合計値であり、これを顧客の側から見て測定・評価したものである。この低減方法として、使用コストに影響を及ぼす要因を明確にし、計画企画段階からこれを仕様に反映させる必要がある。また、ライフサイクル・コストのほとんどが企画設計段階で決定されてしまうので、源流段階における適切な措置が不可欠である。

〔第 2 問〕

記号（AまたはB）

1	2	3	4	5
B	A	A	B	A

〔第 3 問〕

問 1

年間の増加件数 4 件

問 2

① 差額収益 24,000 千円

② 差額原価 16,800 千円

③ 差額利益 7,200 千円 記号（AまたはB） A

〔第 4 問〕

① 直接配賦法 ￥ 201,750

② 階梯式配賦法 ￥ 201,860

③ 相互配賦法の連立方程式法 ￥ 201,100

〔第5問〕

問1

完成工事原価報告書	
自 平成×4年11月1日	
至 平成×4年11月30日	
秋田建設工業株式会社	
(単位：円)	
I 材料費	1,602,460
II 労務費	1,373,500
(うち労務外注費	623,700)
III 外注費	415,680
IV 経費	951,110
(うち人件費	528,380)
完成工事原価	4,342,750

問2

¥

2,640,140

問3

① Q材料の副費配賦差異

¥

450

記号 (AまたはB)

A

② 運搬車両部門費予算差異

¥

3,350

記号 (同 上)

A

③ 運搬車両部門費操業度差異

¥

970

記号 (同 上)

A